

環境に配慮した取り組み ～野鳥と高速道路との共生に向けて～

NEXCO中日本では、「環境・持続可能社会への貢献」の取り組みとして、東名阪自動車道の弥富^{やとみ}インターチェンジ（IC）、蟹江^{かにえ}ICで、高速道路の機能と安全を損なうことなくサギの生息環境を保全し、自然（サギ）と人（高速道路）との共生を目的としてエコロードの整備を行っています。

2010年8月28日には、共生の取り組みを継続的に図ることを目的として「愛知県弥富野鳥園」、「日本野鳥の会愛知県支部」と、連携・協力に関する覚書を締結しました。

更に、この取り組みを広く知って頂くため、サギと高速道路との共生を図る必要性や方法などを解説した冊子、「高速道路がサギのすみかになったわけー自然と人が共に生きていくためにー」を制作しました。

編集は、覚書のメンバーで構成される「サギと高速道路との共生を考える会合」が行い、NEXCO中日本が発行しました。

冊子は、愛知県や三重県北部の小学校、図書館、児童館などに配布して、環境教育などに役立てて頂くとともに、愛知県弥富野鳥園や日本野鳥の会愛知県支部が行う探鳥会や親子セミナーなどで積極的に活用します。

【冊子に関するお問い合わせ先】

NEXCO中日本 名古屋支社 桑名保全・サービスセンター 総務企画担当
TEL0594-24-5001（代表） 平日9:00～17:25



サギの営巣と侵入対策状況

当社は今後も引き続き、自然（サギ）と人（高速道路）との共生などを通じて、自然環境に配慮した道路（エコロード）づくりを推進いたします。